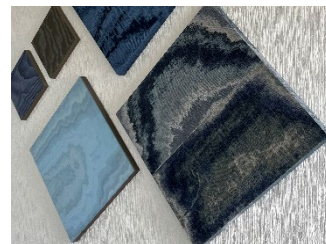


# 第31回 中国地域ニュービジネス大賞表彰制度 特別賞 受賞企業 受賞事業紹介(五十音順に掲載)

## ①セイシヨク株式会社 (岡山市)※

<https://nunous.jp/>

※セイシヨク(株) 本社は倉敷市  
受賞事業は岡山市 岡山工場



NUNOUS [ニューノス]

### ○表彰事業

『NUNOUS [ニューノス] 未活用の繊維素材を価値化する取り組み』

### ○事業内容

1880年に倉敷にて織物製造業として創立し、現在は岡山工場にてユニフォーム生地、人工皮革の染色を行っている。2018年よりNUNOUS事業を開始。この事業は、様々な業種で発生する「無価値とされている繊維廃材」を「未活用の繊維資源」として回収して価値化する取り組みである。繊維製品のリサイクルが進まない原因の一つが繊維の分別が困難な点であり、この課題を解決するために、多様な繊維が混ざった繊維素材も原料にできるアップサイクル手法(新・積層法)を開発し、2021年にNUNOUSの製法で特許を取得。新・積層法は、粉碎以外の再生手法には不向きな、様々な繊維の混ざった各種混合繊維も利用可能となった。原料として未活用の繊維のほかにサトウキビの非可食成分由来のバイオポリマーを使用しており、元来活用されていないもので製品化できている。これにより、ファッションにとどまらず、建築や文具など多彩な分野で繊維廃材の新しい用途を創造している。素材の色や柄を残して積層して切り出した表面には、装飾材として使用可能な意匠性だけでなく、由来を顕す物語性も備わっており、「自身に由来のある再生素材を創って自ら使う」という新しい価値を提供している。少量での別注生産(10kg程度)に対応できるので別注へのハードルも低く、ユーザーが積極的に繊維廃材を活用する動機となっている。岡山は繊維産業が多数あり、企業などから未活用の繊維素材を受け入れて、オリジナルのNUNOUSに戻す活動も行っており、繊維廃材の未来を創造する事業である。

## ②セディカル株式会社 (山口県周南市)

<https://www.sedical.co.jp>



セディカル(株) 宮田社長

### ○表彰事業

『予防医学に基づいたビヨンドスイーツの開発』

### ○事業内容

2021年に創業。シュガーフリー、グルテンフリー、カゼインフリー、オールナチュラル、ハラールなどに対応する健康スイーツの企画、開発を主な事業としている。既存の健康食品は、「甘さや美味しさ」と「効果・効能」がトレードオフになることが多い。この商品は、医師との共同開発により、がん患者や糖尿病患者でも食べられる、むしろ食べたほうが良いチョコレートを、高品質カカオの芳醇な香りや甘さを残したうえで実現した革新的な商品である。糖質0チョコレートは市場にあるが、ほとんどが人工甘味料や添加物で甘さを出している。当社は全て天然由来の食材のみを使用しており、甘味料は一般の砂糖に比べ血糖値が上昇しにくく砂糖の300倍も甘い100%羅漢果顆粒を使用している。加えて個々の必要性に応じた特許成分を配合していることで、他社の健康チョコレートと差別化を図っている。本製品は、病気を発症した方だけでなく、病気にならないための予防医療でも活躍する製品である。そのため、健康意識が高く、予防医学を中心としているアメリカの市場には浸透しやすく、また、ヘルスケア市場サイズからみても、アメリカは目指すべき優先度の高い地域であると判断して海外展開を中心に活動を開始しており、新たな市場での活躍が期待される事業である。

### ③株式会社タシマボーリング（鳥取市）

<https://tashima-boring.com/>



#### ○表彰事業

『井戸掘り技術を活かしたマサバの陸上養殖事業』

#### ○事業内容

1991年に創業。井戸掘りを主体としたボーリング工事が主な事業である。2021年から長年培った地下水開発の技術を活かしたマサバの陸上養殖事業を開始。鳥取市岩美町大谷に地下海水井戸陸上養殖センターを開設。

陸上養殖は海面養殖と異なり陸上に設置した水槽に人工海水や海より直接汲み上げた海水を用いることが一般的である。これに対して、当事業は陸上で井戸を掘り、そこから得た地下海水を利用することが特徴である。

養殖に適した水質の良い地下海水を確保することが必要であり、本業の強みであるさく井技術を活かしている。また日々の施設メンテナンスでは、取水設備の高度な管理にさく井事業のノウハウが使われている。この事業を通じて、新たにオリジナル地下海水調査工法「ターゲットポイント工法」を開発し、養殖と井戸掘り技術を融合した新しい事業を構築した。

陸上養殖とすることで、ジェンダーレス水産業として誰もが活躍できる職場を目指している。開設した養殖センターでは、飼育員を女性が担当しており、重労働のイメージがある水産業でも女性が働ける環境として水産業へのイメージ向上を図っている。

現在は、JR西日本のブランドである「お嬢サバ」に加え、地域の特色を活かしたオリジナルブランド「さばみちゃん」の飼育販売をスタート。ブランド価値向上に向け餌の改良や水槽の工夫を進めることでサバの身の脂乗りや美味しさの追及を行うなど、多様な新規性に富む事業である。

陸上養殖施設

### ④株式会社バイタルリード（出雲市）

<https://www.vitallead.co.jp>



#### ○表彰事業

『過疎地域における定額乗合タクシー「TAKUZO」』

#### ○事業内容

1998年に創業。交通というキーワードで、地域の公共交通計画や道路整備計画等のコンサルタント業務、GISを活用したソフト開発やスマホアプリ開発、あいのりタクシー等の新しい旅行サービスの展開に取り組む中。

2019年にTAKUZO事業として定額乗合タクシーの運行支援ビジネスを立ち上げた。これは、過疎地域の公共交通における利用者・運行事業者・行政の課題の同時解決を目指した過疎型AIオンデマンド配車システムである。地方のタクシー事業に「定額乗合タクシー」の仕組みを提供することを通じて、①「交通弱者の移動環境改善」②「タクシー事業者の収益性改善」③「自治体の交通に係るコスト削減」という3者の課題を解決することを目的としている。クルマを自由に使えない高齢者等が、従来利用してきた公共交通の運賃よりも少し多くの定額料金を支払うことで、過疎地域に適した、乗り放題の「ソコソコ便利な移動環境」の提供が可能となる。

この定額乗合タクシー向けに、独自アルゴリズムをもったAIオンデマンド配車システムを構築した。これは需給共に少ない地方の定額乗合タクシーに最適な配車アルゴリズムとしており、少ない車両での輸送人数を最大化し、運行コストを最小化する運行が可能となっている。

これにより、過疎地域での地方自治体が赤字不採算によりサービス低下を余儀なくされている公共交通機関の代替となり、高齢者向けの交通手段の維持などの課題解決につながる事業である。

TAKUZOの説明

## ⑤株式会社ビーライズ (広島市)

<https://berise.co.jp/>

### ○表彰事業

『医療教育用 VR シミュレータープラットフォーム』



VR シミュレーター操作

### ○事業内容

2012年に創業。XR領域でサービス提供を行うテクノロジーカンパニーであり、リアルな3D・CGとアプリケーション・web開発、アイデアを組み合わせた最先端ソリューションを開発している。2019年からXR総合開発(教育、医療)を開始し、2021年よりメタバース事業を開始した。

本事業では、病院や大学医学部と連携し、「医療用3Dモデル・シミュレーション技術、開発特許、大学との連絡」等によるノウハウを基に、VR空間で医療従事者の臨床力を向上できる「医療教育用VRシミュレーター」の開発に特化したプラットフォームを構築したものである。

このVRシミュレーターは、高精細な3D・CG空間内に診察室や手術室・患者を再現しており、診察や治療手技をシミュレーションできるVRソフトウェアとなっている。臨床経験の浅い学生が治療手技を身に付けるためには経験できる回数が必要であるが、医療現場や時間の制約などから個々の学生に与えられる時間や回数は十分とは言い難い。この製品は感溢れるインタラクティブなトレーニングができたため、座学だけでは学べない体験知を短期間で繰り返し学習することが可能となっている。

今後、新たに開発される医療技術や高度な医療装置を使った医療行為に備え、それを学習する時間や手段が求められている。VRシミュレーターを大学医学部や研修医を受け入れている臨床研修病院に展開することで、高度な医療技術を備えた人材育成につながる事業である。

## ⑥藤森産業機械株式会社 (米子市)

<http://fsk-japan.com>

### ○表彰事業

『排水負荷を大幅に低減！次世代生ごみ処理装置の開発』



生ゴミ処理装置

### ○事業内容

1982年に創業。食品製造に携わる省エネや環境保全に関するシステムや機器類を主に製造。生ごみ処理機、オゾン発生器、排水処理装置等、食品製造業における環境保全システムの構築やサポートを行っており、2019年に排水負荷を大幅に低減できる生ごみ処理装置を開発した。

食品生ごみの処分方法として、食品リサイクル法やCO2削減、SDGsなどの観点から、環境負荷の軽減に向けた様々な仕様が検討されており、微生物で分解して液化する消滅型がその一つである。焼却処分と違い、膨大なエネルギーやCO2を出さないが、従来の方法では微生物分解されていない生ごみが排水に直接流される恐れや、排水基準を超える可能性もあった。

当装置は、排水を固液分離する機構を設け、大幅に排水の負荷を軽減できている。さらに、機械内部に水が溜まりやすい構造上の欠陥を解消する機構を開発したことで、米食の多い学校給食の事業所でも詰まりの少ない生ごみ処理機として高い評価を得ている。生ごみを分解して生成した分解液は排水するだけでなく液肥として利用するリサイクルにも10年以上取り組み、栽培実績を増やしている。

生ごみ処理では臭いなどが気になるが、実際に稼働しているところでは、「生ごみがどこにあるのか分からない」とのお声をいただいております。悪臭が伴わず排水管の詰まりも少ないなど周辺環境に対して優しいなど、全国の生ごみ処理環境が大きく変わる事業である。